

[いのちを想う]

*「いのち」とは、「死」とは、「生きる」とは・・・いっしょに考える本。



いのち
支える

書名	著者	出版社	内容	本の場合
ありがとうおかげさま	下村満子/編著	海竜社	村上和雄、稲盛和夫、渥美和彦、米沢富美子、中森じゅあん、下村満子の6人が「命」「生きる意味」について語ったシンポジウムでの基調講演や発言を再構成、一部加筆して単行本化したもの。	114.2/シ
人はどうして死にたがるのか	下園壮太	文芸社	「死にたがる心」はどこからくるのか？人は本当に死にたがっているのか？自殺は人が原始からもっている「生きる」プログラムの誤作動であるという視点から、「死にたい気持ち」を解説。	医療 145.7/シ
いのちの言葉	日野原重明	春秋社	生きがいとは、自分を徹底的に大事にすることから始まる。ヴィジョンとは遠くにあるものではなく、私たちが踏んでいるその足元にある…。開いた頁から希望の光があふれる、心ゆさぶる名言集。	159/ヒ
子どもたちの遺言	谷川俊太郎/詩	詩佼成出版社	大人よりもはるかに死から遠い子どもが大人に向かって遺言を書くという発想から生まれた詩集。生まれたばかりの赤ちゃんから成人式を迎えた若者まで、生き生きとした子どもたちの姿を捉えた写真が印象的。	911.5/タ
いまを生きるちから	五木寛之	日本放送出版協会	この時代を生き抜くちからはどこにあるのか。生命の重さをどう取り戻せばいいのか。悲しむこと、泣くこと、寛容と共生など、日本人の「和魂」をいまいちど考える。	914.6/イツ
生きる意味を教えてください	田口ランディ	バジリコ	「どうして人は人を殺すのか」「どうして社会は良くならないのか」「人はなぜ死ぬのか」この世の矛盾や、残虐や、やりきれなさについて、考えている人たちがいる。答えの出ない問いをめぐって交わした9人との対話の記録。	914.6/タク
ブナの実はそれでも虹を夢見る	丸山健二	求龍堂	どうして私たちは生きていて楽しいと思えるような生き物ではないのだろう…。種から育て、20年を経て花を咲かせたブナの木から学んだ、生きる命のあり方。	914.6/マル
命のカウンセリング	長谷川泰三	あさ出版	「死のう」と向かった場所で、少年が出逢ったものとは-。15歳で交通事故に遭い、一生歩けなくなった車いすのカウンセラーが伝える、大切な人の命を救うためにできること。	医療 916/ハ
いのちのおはなし	日野原重明/文 村上康成/絵	講談社	いのちは、どこにあると思いますか？友達同士で心臓の音を聞いて、生きている証を確かめたら、今度はいのちについて考えてみよう。95歳の医師、日野原重明先生が小学校で行った「いのち」についての授業の絵本。	児童 E/I/I
くまとやまねこ	湯本香樹実	河出書房新社	突然、最愛の友だちのこたまりを亡くしてしまい、暗く閉め切った部屋に閉じこもっていたくま。ある日やまねここと出会う…。	児童 E/ク
わすれられないおくりもの	スーザン・パーレイ	評論社	もの知りでかしこく、みんなからとてもたよりにされていたアナグマは、冬のはじめに死んだ。友だちの素晴らしさ、生きるためのちえやくふうを伝えあっていくことの大切さを語り、心にしみる感動をのこす絵本です。	児童 E/ワ
グリーンフェア				
死別の悲しみに向き合う	坂口幸弘	講談社	大切な人と死別したとき、その体験とどう向き合っていけばいいのか。周囲はどう接すればいいのか。先人たちの言葉や遺族の生の声を交えながら、「悲しみの後を生きる」ための術を模索する。	新書 146.8/サ

